

研究概要報告書【音楽振興部門】

(1 / 1)

| | | | |
|-------|--|--------|------|
| 研究題目 | インドネシア・バリ島の古楽「スロンディン」の視聴覚資料化プロジェクト:楽器編成システムによる音響生成を焦点に | 報告書作成者 | 野澤暁子 |
| 研究従事者 | 野澤暁子 | | |
| 研究目的 | <p>スロンディン(Selonding)とは、インドネシア・バリ島の一部の村落に伝承される、最も古い様式のガムランである。その特徴として広く知られているのは、「他のガムランが青銅製であるのに対し、鍵盤の素材を(鉄)とする」「楽器自体が神聖視され、特殊な扱いを受けている」といった点である。</p> <p>報告者は2005年よりスロンディン研究に従事してきたが、その過程でさらなる特徴として、「スロンディン固有の鍵盤音列にもとづく柔軟な楽器編成」を発見した。そこで本研究では、バリ島東部のカラングッセム県トゥガナン・プグリンシンガン村においてスロンディンの撮影・録音作業を行い、固有の楽器編成システムによる音響生成に関する分析を行う。その目的は、他のガムラン音楽にはみられない独自性を音楽学的に明らかにするとともに、伝承地の若者たちと協働の記録作業を通じ、伝承が危ぶまれているこの古楽の価値を再発見することにある。</p> | | |

| | |
|------|---|
| 研究内容 | <p>「スロンディン」は鉄の鍵板からなる珍しいガムラン音楽の一形態で、現在バリ島で14の村落のみで伝承される。ジャワ島およびバリ島に残された古文書によるとその起源は12世紀以前と考えられ、ガムラン音楽の発展経緯を探る上で貴重な古楽である。</p> <p>スロンディンの名はインドネシア音楽研究者の間で知られているものの、その音楽構造の特徴については未解明の点が多い。申請者は2005年より8年間スロンディンの研究に従事し、その過程でスロンディンの最大の特徴が「同型楽器(8台)の異なる音階配列」「楽器編成の組み換えによる多様な音響生成」であることを発見した。これは固定的音階配列をもつ、他のガムランにはみられない特徴である。したがって伝承地トゥガナン・プグリンシンガン村で詳細な視聴覚資料の作成を行い、その分析を通じてスロンディンの固有性を学術的に明確化するのがねらいである。</p> <p>現在スロンディンは、後継者危機の状態にある。申請者はトゥガナン・プグリンシンガン村からの要請にもとづき、2013年7月に村の若者層を対象とした伝統文化のデジタル記録技術の研修を行った(KDDI財団助成)。その応用として、彼らと協働で100曲近くの伝承曲をもつスロンディンの記録作業を行うことにより、スロンディンという音楽文化遺産の価値を再発見するのも目的である。</p> |
|------|---|

研究概要報告書【音楽振興部門】

(1 / 1)

| | |
|----------------|---|
| <p>研究のポイント</p> | <p>本研究の最大の焦点は、「最古のガムラン」「神聖な儀礼音楽」という通念を超えて報告者が発見した、スロンディン固有の「鍵板音列」と演奏実践で展開される「多様な楽器編成」の視聴覚資料化である。この実現によって、バリ島の古楽に関する貴重な学術資料を広く共有化するとともに、伝承村落における伝統音楽の価値の再発見を促進するのが目的である。これに加え、音楽という身体伝承を地元の担い手の人々との協働で映像記録化する実践を通じ、今日の音楽研究における「記録」の意義を発展的に問い直すのもねらいである。</p> |
| <p>研究結果</p> | <p>2014年8月にトゥガナン・プグリンシンガン村の合意のもと、スロンディンの映像記録活動を実施した(説明書・①)。この交渉において、これまで分析化していた楽器編成のパターンをより充実化することが可能となり(説明書・②)、正確な視聴覚資料を作成することができた。その成果に関しては、東洋音楽学会第65回研究大会(2014年11月23日)で「インドネシア・バリ島の古楽スロンディンの楽器編成に関する考察」と題して口頭発表した。また実施過程を通じて、内部者(音楽の担い手)と外部者(他者)が「暗黙知×概念知」という相互交渉を通じて新たな音楽観を創生する事実を再確認し、その参与観察の成果を論文として名古屋大学比較人文学年報(2015年度版)に投稿した(題目:「プロセスとしての音楽知の映像化—インドネシア・バリ島の(スロンディン)撮影プロジェクトの実践から」/添付資料)。成果物であるDVD「聖なる鉄琴スロンディンの音世界」は、国立民族学博物館を始めとする国内の主要な音楽研究機関に寄贈した他、英語版・インドネシア語版も作成し、学術資料としての広い共有化をはかった(説明書・③)。</p> |
| <p>今後の課題</p> | <p>今回の活動を通じ、スロンディンの伝承村落の一つであるトゥガナン・プグリンシンガン村の人々との絆を深め、互いの音楽観の発見を通じて伝承促進にむけた発展的な関係を構築することができた。それと同時にあらためて課題に浮上したのは、他の村落におけるスロンディンの特質と伝承状況の確認作業の必要性である。スロンディンの楽器編成(各名称、鍵板音列、運用様式)は村ごとに微妙な差異があり、その固有性に「生きた音楽文化」としての価値がある。しかしながら現地の情報によると、スロンディンという小さくも深いローカルな音楽伝承は社会全体のグローバル化の波に飲み込まれつつあり、なかには伝承者が残り一名という村もある。こうした状況に対し、音楽研究者だからこそ果たしうる役割を見出し、実践すべきであると考えている。その一つのアクションとして、2015年9月にアイルランドで開催される国際伝統音楽評議会(ICTM)で発表する予定にある。世界的な視野からフィールドの内外に有機的な関係を構築し、価値ある文化を未来に伝えてゆくことも、今日の人文学研究に与えられた大切な使命であると考えている。</p> |

① プロジェクト実施の光景



[カメラ5台による多角的な撮影]



[村の要請による子どもの演奏の撮影]



[演奏者たちとの記念撮影]

② スロンドインの鍵盤音列と楽器編成

PN= プスマン PT= ブトゥドゥ NC= ニョンニョン・チュニカン NG= ニョンニョン・グデナン
 KC= クンブル・チュニカン KG= クンブル・グデナン GC= ゴン・チュニカン GG= ゴン・グデナン

[編成A] 基本編成。下二列の左右は対で合奏。 [編成B] PTとPNが主旋律担当となる。

| | | | |
|-----------------|-----------------|---------|---------|
| KC | KG | GC | GG |
| 7 6 5 4 | 5 4 3 2 | 3 2 1 7 | 1 7 6 5 |
| NC | NG | | |
| 2 1 7 6 5 4 3 2 | 7 6 5 4 3 2 1 7 | | |
| PT | PN | | |
| 1 7 6 5 | 4 3 2 1 | | |

[編成C] 巡回儀礼の編成 [編成D] PNとKCが主旋律担当となる。

| | | | |
|-----------------|-----------------|---------|---------|
| KC | KG | GC | GG |
| 7 6 5 4 | 5 4 3 2 | 3 2 1 7 | 1 7 6 5 |
| NG | PN | | |
| 7 6 5 4 3 2 1 7 | 4 3 2 1 | | |
| NC | PT | | |
| 2 1 7 6 5 4 3 2 | 1 7 6 5 | | |
| KG | GC | GG | |
| 5 4 3 2 | 3 2 1 7 | 1 7 6 5 | |
| NC | NG | PT | |
| 2 1 7 6 5 4 3 2 | 7 6 5 4 3 2 1 7 | 1 7 6 5 | |
| PN | KC | | |
| 4 3 2 1 | 7 6 5 4 | | |

[編成E] NGが主旋律担当楽器となる。 [編成F] 編成Eの派生形。中列の四台を連結。

| | | | |
|-----------------|---------|---------|---------|
| KC | KG | GC | GG |
| 7 6 5 4 | 5 4 3 2 | 3 2 1 7 | 1 7 6 5 |
| NC | PT | PN | |
| 2 1 7 6 5 4 3 2 | 1 7 6 5 | 4 3 2 1 | |
| NG | | | |
| 7 6 5 4 3 2 1 7 | | | |
| KG | GC | GG | |
| 5 4 3 2 | 3 2 1 7 | 1 7 6 5 | |
| NC | PT | PN | KC |
| 2 1 7 6 5 4 3 2 | 1 7 6 5 | 4 3 2 1 | 7 6 5 4 |
| NG | | | |
| 7 6 5 4 3 2 1 7 | | | |

[調 (サイー saih)] ※いずれの調も、低音から順に「Ding, Dong, Deng, Dung, Dang」と呼ぶ。
 ■サイー・パンジ・マルガ (saih panji marga): 1-2-3-5-6 ■サイー・サディ (saih sadi): 2-3-4-6-7
 ■サイー・ソンドン (saih sondong): 3-4-5-7-1 ■サイー・カスンバ (saih kasumba): 5-6-1-2-3
 ■サイー・プジャ・スマラ (saih puja semara): 7-1-2-4-5 ■サイー・サディ (saih sadi): 5-6-7-2-3
 ■サイー・プジャ・スマラ・プメロ (saih puja semara pemero): 4-5-6-1-2

③ 成果資料(DVD)の寄贈先

〈日本語版〉
 タイトル:「聖なる鉄琴スロンドインの音世界—インドネシア・バリ島トゥガナン・プグリンシンガン村」
 ISBN: 978-4-9907590-1-8 (非売品)
 寄贈先: 国立国会図書館、東京藝術大学附属図書館、国立音楽大学附属図書館、愛知県立芸術大学芸術情報センター図書館、京都市立芸術大学附属図書館、大阪芸術大学図書館、くらしき作陽大学附属図書館、大阪音楽大学附属図書館、沖縄県立芸術大学附属図書館

〈英語版〉
 タイトル: The Sound World of the Sacred Iron Metallophone Ensemble SELONDING: Tenganan Pegeringsingan Village, Bali-Indonesia
 ISBN: 978-4-9907590-3-2
 寄贈先: Wesleyan University Library, The Library of UCLA, University of Washington Library, The University of Hawaii at Manoa Library, University of Wisconsin-Madison Library (追加予定あり)

〈インドネシア語版〉
 タイトル: Musik Tradisional SELONDING —Tenganan Pegeringsingan, Bali-Indonesia—
 ISBN: 987-4-9907590-2-5
 寄贈先: トゥガナン・プグリンシンガン村、Institut Seni Indonesia, Denpasar (現地の事情によりその他の寄贈先は上記の村に一任)

(注:写真, データ, グラフ等 研究内容の補足説明にご使用下さい。)